

S.S.U.9 岩 史跡めぐりクラブ 巾着田・高麗神社散策【行程表】

実施日：平成26年10月2日(木)

大宮駅コンコース豆の木付近 9時20分集合

大宮駅 (9時38分発川越線川越行 3～6号車に乗る)

(大宮駅→川越駅→高麗川駅 580円)

川越駅 (10時00分着)～(10時08分発)

(川越線高麗川行 大宮駅から高麗川駅までの所要時間：56分)

高麗川駅 (10時34分着)

(10時50分出発 徒歩：30分)

① 高麗神社(高麗家住宅) (11時20分着)

(見学：20分)

(11時40分出発 徒歩：5分)

② 聖天院 (11時45分着)

(聖天院拝観料：300円/人)

(見学：25分)

(12時10分出発 徒歩：30分)

③ あいあい橋・巾着田曼珠沙華公園 (12時40分着) (公園入場料：300円/日・人)

(昼食：50分 巾着田散策：70分)

(14時40分 管理事務所前集合・出発 徒歩：15分)

高麗駅(15時24分発)

(参考 次は16時24分発⇒大宮着17時51分)

(西武秩父線(飯能行))

(***円)

東飯能駅(15時29分着)・(15時38分発)

(JR八高線(川越行))

(***円)

高麗川駅

(川越線)

川越駅(16時03分着)・(16時10分発)

(川越線)

大宮駅(16時33分着) (高麗駅から大宮駅までの所要時間：1時間09分)

大宮駅にて解散とします。

S.S.U.9 岩 史跡めぐりクラブ 巾着田・高麗神社散策

平成26年10月2日(木)

◆日高の概要：

太古から近世まで、人々の営みが脈々と息づいてきた日高。遠く奈良時代より続いた旧高麗郡の中心地である。奥武蔵自然公園内に位置し、豊かな自然とともに、高麗神社・聖天院・巾着田など多くの歴史的建造物が残されています。その歴史の足跡を偲び、のんびりと一日探訪を楽しみましょう。

①高麗神社

高麗神社の主祭神は、かつて朝鮮半島北部に栄えた高句麗からの渡来人高麗王若光(こまのこきしじゃっこう)である。

奈良時代の霊亀2年(716)東国武蔵野の台地に1799人の高麗人が入植し、未開の原野の開拓にあたった。大和朝廷はこの地を高麗郡と称し高麗王若光を首長とした。若光がこの地で没した後、高麗郡民はその徳を偲び、その霊を高麗明神として祀った。これが当社創建の経緯です。高麗神社は、若光の子孫が代々宮司を務め、現宮司は60代目である。

特に浜口雄幸、若槻禮次郎、斉藤実、小磯国昭、幣原喜重郎、鳩山一郎らが当社参拝後相次いで総理大臣となったことから、出世明神と広く知られるようになった。

(高麗家住宅)

高麗神社の裏手にあり、代々宮司を務めた高麗家の住宅。茅葺の入母屋造りの住宅として、県下で最も古いものとされており国指定重要文化財に指定されている。

(將軍標)

入口に建っている將軍標は、朝鮮半島の古い風習で、村の入口に魔除けのために建てられているものである。

②聖天院(高麗山 聖天院 勝楽寺)

高麗山聖天院はいまから1260年前の天平勝宝3年(751)に当地を開拓して亡くなった高麗王若光の菩提を弔うために創建された。高麗王若光の守護仏・聖天像(大聖歓喜天)を本尊としたと伝えられている。その後、真言宗に改宗され本尊を現在の不動明王に改められている。

平成12年(2000)には山腹に新本堂を建立し、約150段の石段を登った本堂前からは、高麗郡が一望でき、遠く東には埼玉新都心、南には富士山・丹沢、西には奥多摩・奥秩父の山々を見渡すことができる。



【高麗神社拝殿】



【高麗家住宅】



【將軍標】



【聖天院本堂】

② 応仁の鰐口（県指定文化財）

この鰐口は、衛門五郎が願主となり、応仁2年(1468)に渋江満五郎に造らせて、鬼窪郷佐那賀谷村(現南埼玉郡白岡町実ヶ谷)久伊豆神社に奉納され、その後の戦乱によって当院に蔵されるようになったものである。

渋江は、現岩槻区の一部で、中世まで渋江鋳物師と呼ばれる集団が居住していた。満五郎もその一人であるとされている。岩槻の大光寺にも文明6年(1474)銘の渋江鋳物師が造ったといわれる鰐口が残っている。

③ あいあい橋

あいあい橋は、平成8年(1996)に高麗川に架けられた歩行者専用の橋である。木製立体トラス形式で、全長91.2mは日本最長である。(トラス形式=構造骨組の一形式。節点(結合点)がすべて回転自由の結合から成る構造のこと)



【あいあい橋】

④ 巾着田

日高市内を流れる清流、高麗川の蛇行により長い年月をかけてつくられ、その形が巾着の形に似ていることから、巾着田と呼ばれるようになった。

直径500m、面積約22ヘクタールの川に囲まれた平地には、菜の花、コスモスなどの花々が咲き、中でも秋の曼珠沙華の群生地は辺り一面が真紅に染まり、まるで赤いジュウタンを敷き詰めたようである。毎年多くの人々がその美しさにひかれて訪れる。



【巾着田案内板】

⑤ 水天の碑（参考：本件は巾着田と高麗駅の間にある通過）

天保年間(1830~1844)に繰り返された干ばつ、大洪水などの天災や水難事故を鎮めるために台村の人々が建立したもの。



【水天の碑】

⑥ 台の高札場（参考：本件は巾着田と高麗駅の間にある通過）

高札場とは、江戸時代の掲示板である。法度・掟書きなどを記し、またさらし首・重罪人の罪状を記し、人目をひく所に高く掲げた立札である。村の中央、代官、名主の屋敷前などに設けられて、重要な事項、幕府の基本姿勢の周知徹底を図ることを目的としたものでもある。



【台の高札場】